

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

# 経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666  
FAX 03-3455-7777

## 経営者への活きた言葉

### 理想を取り戻す人をつくる 永守 重信（京都学園大学理事長、日本電産会長）

1. 自分で会社を起こし、長年経営に携わってきて感じるのは、会社というのは「人材」が鍵を握るということです。ただ、いい人材というのは世の中にごろごろいるわけではない。だから採用してからの教育が重要となる。つまり最後に行き着くのは「教育」なんです。
2. 日本電産グループはこれまで、6600 人の大学・大学院の学生を採用しており、膨大な人事データを持っています。そこから分かったのは、入社後の仕事の実績や評価と出身大学（偏差値）とは全く関係ないということ。一流大学の出身者がいい仕事をするとは限らないのです。でも世の中はそう思っていない。だから企業は一流大学出身者を採用しようとするし、親は子どもを塾に入れて一流大学に入れようとするわけです。
3. 私はそうした状況を根本から変えたい。課題はたくさんあります。中でも一番深刻なのは、入学してきた学生が理想を見失っていること。伸び伸びと勉強している人は少ないですね。こんな状態で 4 年間過ごして社会人になっても、役に立つわけがない。本学に入った学生が理想を取り戻せるような環境をつくるのが理事長としての私の仕事です。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2018 年 8 月 4 日号）

## 経営者のための理念・哲学

### 助け合う気持ちで乗り越える

#### 稲村 純三（明電舎相談役）

1. 2008 年 6 月に社長になって数年間は大変な時期でした。就任して 3 カ月後に起きたのがリーマンショック。ようやく景気も落ち着いたかと思ったところに東日本大震災が襲ってきました。当然、当時は当社の業績への影響も大きなものがありました。でも、私はリストラは全く考えませんでした。リーマンショックの際は、従業員に対して 5~6%の賃金カットをして、みんなで耐え抜く道を選択しました。それは、人のつながりや助け合う力こそが企業の強さだと長い間思ってきたからです。
2. 人口減の中、インフラが増え続ける時代ではない。「助け合う気持ち」は、激変の時代も乗り越える力になる。心からそう思います。

（参考：「日経ビジネス」：2018 年 8 月 6・13 日号）

## 新規成長分野

### 球場からお寺まで貸し出す

1. いま日本には、第 4 次ベンチャーブームと呼ばれる波が来ている。2017 年のベンチャーの資金調達額は 2791 億円。スペースマーケット（2014 年 1 月設立、資本金 2 億 5374 万円）は、部屋や会議室はおろか、球場からお寺まで、空きがあればどんなスペースでも貸し出すという、ありそうでなかったサービス。常時 9000 スペースが利用可能だ。
2. パーティからロケ撮影まで、用途は無限。辺鄙な山奥の民家まで、意外に利用者がいる。最近では、新法の施行に伴い民泊から撤退した個人が代わって部屋を貸し出すなど、意外なニーズも出ている。副業が普及したことも追い風だ。本業より場所貸しの稼ぎが多いサラリーマンもいる。

（参考：「週刊東洋経済」2018 年 7 月 14 日号）

## 古典に学ぶ

### 些細な仕事でも大きな仕事の一部

（解説）与えられた仕事に不平を鳴らして、いってしまう人は勿論駄目だが、つまらぬ仕事だと軽べつして、力を入れぬ人もまた駄目だ。およそどんな些細な仕事でも、それは大きな仕事の一小部分で、これが満足にできなければ、遂に結末がつかぬことになる。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）